

被災文化財レスキュー事業
情報共有・研究会（第1回）プログラム

テーマ：被災文化財救済の初期対応の選択肢を広げる
－ 生物劣化を極力抑え、かつ後の修復に備えるために

日時： 平成23年 5月10日（火） 13：30－17：00
場所： 東京文化財研究所 地下会議室（またはセミナー室）

太平洋沖地震文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）の発足を受け、東京文化財研究所では、文化庁、ほか関係機構、関係団体等と連携をとりながら、東京での事務局設置場所として後方支援を行うこととなりました。

被災した文化財レスキューでは、いろいろな想定されるケースについての応急処置の具体的なフロー（マニュアル）の整備が急務となっています。とくに津波などの被害に遭った水損文化財の場合、水濡れ、塩による被害もさながら、その後のカビなど微生物による生物劣化をできるだけ抑え、かつその後のより良い修復につなげていくには現地で使用できる材料、インフラを用いてどのような対応が考えられるのか、作業の方法についていくつかの方向性を探り、救援にかかわる関係者、関係諸機関・諸団体と情報を共有し、現場へ提供していきたいと考えております。

今回は、スマトラ沖地震のときに現地の被災文化財の救援活動に積極的に関わられた坂本勇氏、海水に浸水した紙等のカビの発生度合について調査された江前敏晴氏、近年、ヨーロッパでの洪水時の被災文化財の救援法として採用されたスクウェルチ法について調査された谷村博美氏から話題提供をいただき、コメンテーターの方々からもご意見をいただきながら、方向性を議論できればと考えております。救援事業に関わられる皆様の積極的なご参加をお待ち致しております。

13：30 開会あいさつ

13：40-14：20 フリーランス・ペーパーコンサバター 坂本 勇 氏
インドネシア・アチェおよび東北の大津波で被災した文化遺産の救出活動について

14：20-15：00 東京大学大学院農学生命科学研究科 江前 敏晴 氏・東嶋 健太 氏
紙文書類のカビ抑制に与える塩水の効果について

15：10-15：50 紙修復家 谷村 博美 氏
プラハ洪水の際、被災文化財レスキューに使われたスクウェルチ・パッキング法

15：50-16：00 東京文化財研究所 木川 りか ほか
座布団圧縮袋を用いたスクウェルチ・パッキング法の検討、
真水、塩水に浸した紙資料、日本画、油絵の状況について（デモンストレーション）

16：10-17：00 情報交換・意見交換（具体的方法についての討論）
コメンテーター（順不同）：

高妻洋成 氏（奈良文化財研究所）、青木睦 氏（国文学研究資料館）、日高真吾 氏（国立民族学博物館）、岡泰央 氏（国宝修理装こう師連盟）、木島隆康 氏（東京藝術大学）、今津節生 氏（九州国立博物館）山下好彦 氏（東京文化財研究所客員研究員）、山口孝子 氏（東京都写真美術館）ほか